

■ 平成 26 年度総会の方向性に対応した組織体制に係る課題整理事項

■ 課題 1. 組織の目的について(アンケート結果を踏まえて)

◇ 現行の組織目的

<十勝高等教育まちづくり会議>

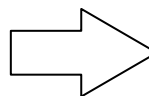
本会は、地域の特性や優位性を活かし、十勝の発展に必要な人材育成や高等教育機関の整備・充実を図ることを目的とする。

<帯広畜産大学整備拡充促進期成会>

本会は、帯広畜産大学の整備拡充を促進することを目的とする。

◆ 組織統合による見直し案

本会は、帯広畜産大学をはじめとする高等教育機関を中心に、地域の特性や優位性を活かし、十勝の発展に必要な人材育成や高等教育機関の整備・充実を図ることを目的とする。



【考え方】 ◇ 地域の知の拠点としての帯広畜産大学の整備拡充と、十勝の高等教育機関の整備、充実の両目的を持ちながら、一体的に取り組むを進めることが必要。このため、十勝高等教育まちづくり会議の目的をベースに、帯広畜産大学の整備拡充の必要性と、帯広畜産大学周辺を拠点とすることを明確化するため、「帯広畜産大学」の表記を加えたもの。

<アンケートの主な意見>

- ◎ 「帯広畜産大学を中心に」⇒「帯広畜産大学や各高等教育機関を中心に」としたらどうか
- ◎ 食・農・環境・健康・医の分野の人づくりを考える場合、帯広畜産大学に限定できない
- ◎ 畜大のみを中心とする考え方に一本化すると、多様性や幅広い対応は出来なくなる。十勝が必要とする事案にフレキシブルに対応できることが重要
- ◎ グローバルな展開をしてグローバル人材を育て、つくる必要がある・・・・・・・・【考え方：人材育成の具体の取り組みで対応】
- ◎ 整備・充実は最終目的にならない・・・【考え方：地域の方向性・将来像は共有。その実現に向けた高等教育の当面の目標とするもの】
- ◎ 目的があまりにも絞られすぎると応用しづらくなる・・・・・・・・【考え方：組織目標は明確にしつつ、多様な連携を進める】

■ 課題2. 組織の役割について(アンケート結果を踏まえて)

◇ 現行の役割・事業

<十勝高等教育まちづくり会議>

- ① 推進方策等に関する調査・研究、検討 ② 情報・資料等の収集
- ③ 広報・啓発活動 ④ 関係機関に対する陳情、要望活動
- ⑤ その他必要な事業

<帯広畜産大学整備拡充促進期成会>

- ① 関係官公庁、その他関係機関に対する陳情、
請願並びに情報の交換及び連絡 ② その他必要な事項



◆ 組織統合による見直し案

本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 本会の目的を達成するための推進方策等に関する調査・研究、
検討、推進
- (2) 本会の目的を達成に必要な情報・資料等の収集
- (3) 本会の目的を達成に必要な広報・啓発活動
- (4) 帯広畜産大学の整備拡充をはじめ、地域の高等教育機関などの整備、
充実に向けた関係官公庁等に対する陳情、請願、要望活動
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

- [考え方] ◇ 統合後の組織では、実際のアクションにつなげることが新たな役割となる。
このため、従前の両組織の取り組みのほか、「推進」の表記を加えたもの。
- ◇ 帯広畜産大学整備拡充促進期成会が有する目的・役割が引き継がれていることを明確化するもの。

<アンケートの主な意見>

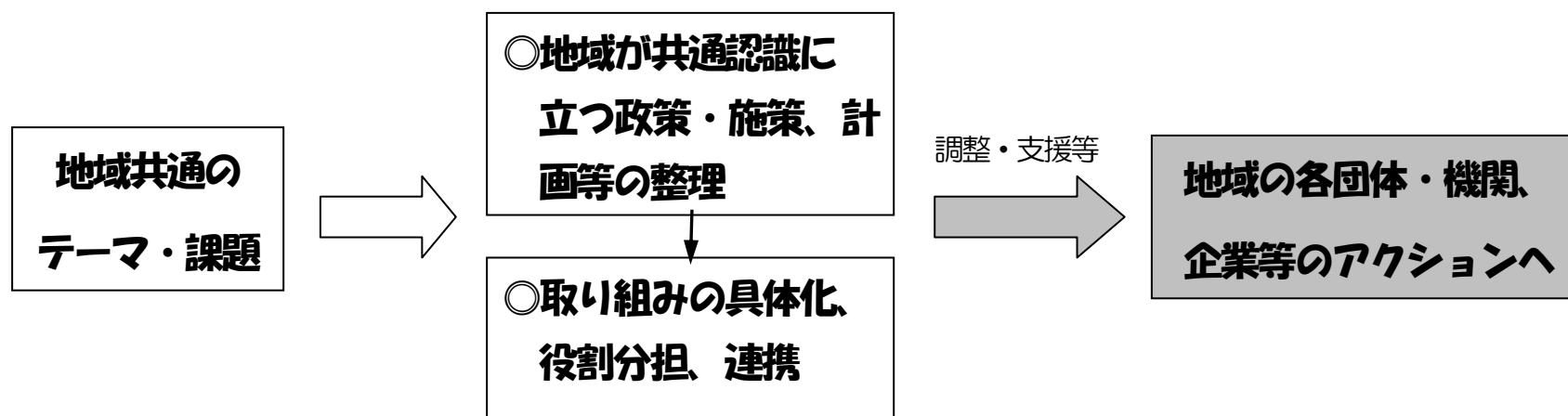
- ◎十勝っ子呼び戻すことも必要・・・・・・・・・・【考え方：地域として重要な視点。仕事づくり、環境づくりの中で検討】
- ◎この間、情報収集、調査研究したものの具体的な道筋をつけるべき・・【考え方：具体の取り組み検討の中で整理】
- ◎教育活動の支援・人材育成事業など、具体の事業を持つべき・・・・・・・・【考え方：具体の取り組み検討の中で整理】
- ◎「教育機関への提言」機能の追加を検討・・・・・・・・・・【考え方：本組織への参画、議論、連携等により対応】
- ◎ PDCA サイクルでブラッシュアップしていく時期・・・・・・・・・・【考え方：新組織では、取り組みの具体化、推進を図る】

<参 考>

新組織の取り組みの基本的な考え方

◆ 考え方

- ① 地域における具体のテーマ・課題への対応に係る考え方、方向性を整理し、十勝地域の共通認識にすること
- ② ①の考え方、方向性に基づく情報収集、調査・研究、
政策・施策、計画等の立案、役割分担に基づく具体の施策推進、調整等
- ③ ②の推進のため、各団体・機関、企業等のつなぎ、結び、巻き込みを進めること
- ④ ②の推進に必要な財源の検討を行うこと など



※本組織が直接、施策を推進するということではなく、プレイヤーはあくまで、地域個々の団体・機関、企業等とする考え方。各組織の情報や力を結集し、今回整理した「今後の取り組みの方向性」などをベースに、例えば、十勝型人材育成システムの仕組みの検討、制度化など、地域課題等を整理、具現化し、共通認識のもとで、各々のアクションにつなげていく

■ 課題3. 組織の名称について(アンケート結果を踏まえて)

◇ 現行の組織名称

- ◎ 十勝高等教育機関の整備推進に関するまちづくり会議
- ◎ 帯広畜産大学整備拡充促進期成会

◆ 組織統合による名称 (案)

とちかち高等教育推進まちづくり会議



[考え方] <案とした理由>

- ①十勝における高等教育の推進により、「人づくり」「機関整備、充実」を図ることにつながり、組織の目的に一致。
- ②新組織では、「推進」をメインとすることを表現
- ③高等教育の推進により、まちづくりにつなぐ意味を持たせ、かつ「まちづくり」を入れても、言葉の並びから焦点が明確

<アンケートの主な意見>

■ 具体の提案

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| ◇ 「とちかち高等教育コンソーシアム」 | ◇ 「十勝高等教育期成会」 |
| ◇ <u>「とちかち高等教育推進まちづくり会議」</u> | ◇ 「十勝高等教育まちづくり会議」 |
| ◇ 「十勝ひとづくり・まちづくり会議」 | ◇ 「十勝まちづくり会議」 |
| ◇ 「とちかち帯広大学等整備まちづくり会議」 | ◇ 「十勝まちづくり会議と畜大期成会」 |
| ◇ 「とちかちの未来教育を考える会」 | ◇ 「フードバレー十勝教育まちづくり推進会議」 |
| ◇ 「帯広畜産大学及び大学周辺整備拡充促進期成会」 | ◇ 「帯広畜産大学等高等教育機関の整備推進に関する会議」 |
| ◇ 「十勝・帯広」拠点大学整備拡充推進会議」 | ◇ 「食に係る知の拠点形成会議」 |
| ◇ 「産業に係る知の拠点形成会議」 | ◇ 「十勝地域の知の拠点形成会議」 |
| ◇ 「マッチング会議」 | ◇ 「町 i n g 会議」 |
| ◇ 「とちかちパワーアップ機構」 | ◇ 「十勝フードバレー大学会議」 |

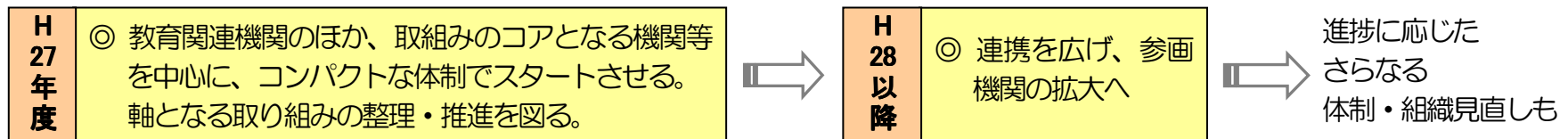
■ 名称に対する意見

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ◎ 「まちづくり」というフレーズはあった方がよい | ◎ 「まちづくり」という文言は省いた方がよい |
| ◎ 「十勝高等教育まちづくり」を入れた方がよい | |

■ 課題4. 組織体制について(アンケート結果を踏まえて)

◆ 次年度に組織する新たな組織体制の考え方

- ① 次年度は、具体の取り組み・基盤づくりを円滑に進める観点から、現組織(十勝高等教育まちづくり会議と帯広畜産大学整備拡充促進期成会)に参画する機関等を中心に、教育関連機関のほか、当面の取り組みのコアとなる機関等により、コンパクトな体制で組織する。
- ② その後、取り組みの進捗等に応じ、参画する機関、連携事業等の拡大を図っていく。



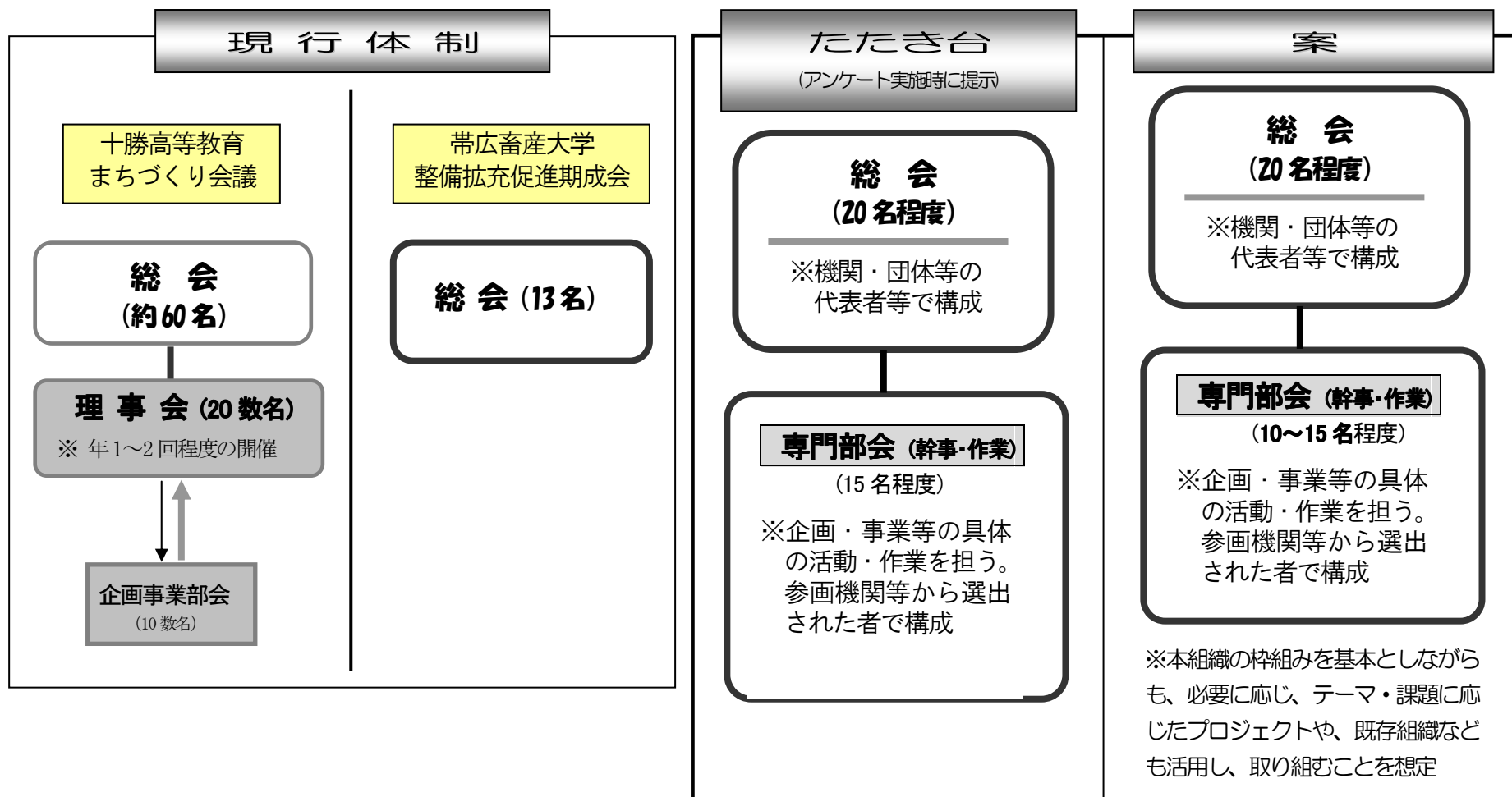
<アンケートの主な意見>

- ◎組織のコンパクト化、スリム化は賛成
- ◎10 団体程度に絞り込めないか・・・・・・・・・・・・・・・・・・【考え方： コンパクトとともに、地域としてのオーソライズに配慮】
- ◎「コンパクトな体制」を継続し、施策の実施は既存組織に委ねるべき
・・・・・・・・・・【考え方： 新組織では、具体のプランニング、方向性の共有、支援等を行い、
実際の推進では、地域の機関・団体との役割分担のもと、個々のプレイヤーの実施が基本 】
- ◎分野（食・農・環境・健康・医）を段階的に広げていくことを想定した場合、スタート時は食に関連する構成として、
順次広げていくことで良い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・【考え方： スタート時の体制としては重点テーマに関連する機関等を中心に体制を
組むが、取り組みとしては限定するものではない】
- ◎情勢変化に対応した、形・組織を変えることが大事・・・・・・・・・・【考え方： 提案の内容に組み込まれている】
- ◎親会議は、議論・検討する場とすべき・・・・・・・・・・・・・・・・・・【考え方： 組織運営の中で整理】
- ◎行政トップ、商工業トップ、大学トップ首脳会議が必要・・・・・・・・・・【考え方： 親会議のほか、既存の様々な場を活用】
- ◎市民の声や時のニーズに基づき、あらゆる方向性を排除せず検討できる姿である事が望ましい・・・・・・・・・・【考え方： 考え方は一致】
- ◎情報は可能な限り公開していくべき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・【考え方： 組織運営の中で、HP等で広く情報提供していく】

次年度の組織体制パターン案

考え方：コンパクトな体制とし、各機関等の代表者で構成する親会議（地域の共通認識に立つ）と、各機関等から選出された者（代表以外）で構成する専門部会（幹事会的な役割と実際の活動等を担う）で組織するもの。

※専門部会の体制は、新組織で改めて確認する。



■ 課題5. H27 年度スタート時のメンバー構成（アンケート結果を踏まえて）

◆メンバー構成：行政機関、試験研究機関、教育関連機関、経済団体、農業団体など、現組織参画機関をベースに構成

※ スタート時の機動性に配慮

< 案 ～ アンケートを踏まえて再整理 >

① 親会議（総会） 20 名程度 ～ 各組織の代表で構成

◎行政：[帯広市、十勝町村会、十勝総合振興局、十勝教育局]

◎議会：[帯広市議会、十勝町村議会議長会]

◎試験研究機関：[とかち財団、農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター]

◎教育関連機関：[帯広畜産大学、北海道高等学校長協会十勝支部、帯広市校長会、十勝小中校長会、北海道高等学校PTA 連合会十勝支部]

◎経済団体：[帯広商工会議所、北海道中小企業団体中央会十勝支部、北海道中小企業家同友会とかち支部、十勝管内商工会連合会、帯広青年会議所]

◎農業団体：[十勝地区農業協同組合長会、十勝農業協同組合連合会、JA 北海道中央会帯広支所]

② 専門部会 10～15 名程度（取り組みのコアとなる機関から選出 1 名～複数名）

◎帯広市 3、町村会 1、振興局 1、財団 1～2、北農研 1、畜大 2(事務、教員・コーディネーター)、商工会議所 2、商工会連合会 1、青年会議所 1、農業団体 1～2

※専門部会の人選・人数等は、新組織であらためて確認するが、引継ぎにあたっての基本的な考え方として整理

＜アンケートの主な意見＞

◎毎年メンバーが入れかわるのは、継続性がない・・・・・・【考え方：専門部会の人選では、複数年の参加を要請したい】

◎人づくりには「教育分野」「研究分野」「実社会分野」が考えられるので、それぞれの分野からの人選が必要

・・・・・・【考え方：スタート時として絞り込んだ分野からスタート。必要に応じ、後年次に拡大】

◎若者の参加に配慮。20年後の地域を利用する住民の視点、女性の視点も必要・・・・・・【考え方：重要な視点。具体の人選の中で対応】

◎農業団体、JA 北海道中央会帯広支所、ホクレン帯広支所、農業・商業などの女性組織・・・【考え方：一部対応。必要に応じ、後年次に拡大】

◎三菱商事(株)北海道支社、ヤマト運輸(株)道東物流支店、帯広地方卸売市場(株)、損保各社（海外取引リスク管理）などの専門家の参加を検討。
民の方々に入っていただく・・・・・・【考え方：個別の企業は、具体の取り組みの連携・推進で関与】

◎「十勝の魅力を売り込む」人材が不足のため、商社や物流業者、運送業者、輸出関連業者などの関連機関も組織に加えるべき
・・・・・・【考え方：物流は地域の課題。個別の企業は、具体の取り組みの連携・推進で関与。】